

令和2年度SDGｓチャレンジサポートプロジェクト
SDGｓチャレンジフォーラム（探究学習発表会）

（概 要）

令和3年1月30日、今年度の探究学習活動最大のイベントである「SDGｓチャレンジフォーラム（探究学習発表会）」をつくば国際会議場にて開催しました。この一年間の探究活動の研究成果の集大成として、1年生はポスターセッションを、2年探究学習委員の生徒はオールイングリッシュによるプレゼンテーションを実施しました。

記

1 目 的 SDGｓの課題解決に向け、社会に貢献できるリーダーを育む
今年度の探究活動の成果発表の場とする

2 期 日 令和3年1月30日（土）10:30～15:45

3 場 所 つくば国際会議場
（茨城県つくば市竹園2-20-3 TEL029-861-1209）

4 対 象 第1学年生徒 320名
第2学年探究学習委員生徒 14名

5 内 容

令和3年1月30日、今年度の探究学習活動最大のイベントである「SDGｓチャレンジフォーラム（探究学習発表会）」をつくば国際会議場にて開催しました。この一年間の探究活動の研究成果の集大成として、1年生はポスターセッションを、2年探究学習委員の生徒はオールイングリッシュによるプレゼンテーションを実施しました。

本来であれば、近隣の小中学生や保護者等にご参加いただき、生徒たちの活動の様子を直接ご観覧いただいて、一緒にSDGｓの諸問題解決の手立てを共有するはずでした。

しかしCovid_19（新型コロナウイルス）の全国的な感染拡大の影響により本県独自の緊急事態措置が発令され、ウィルス感染拡大防止の観点から、すでにお申込みいただいた多数のお客様のご来場を急遽ご遠慮いただき、在校生および職員のための開催となってしまったことは大変残念なことでした。

こうした状況の中、開会にあたって校長は、生徒たちに向け「コロナ禍で、国境を超えた人と物の往来が止まり、一方で情報は縦横無尽に国境を超えて移動する現実と直面し、これからの時代を歩んでいく皆さんには、持続可能な社会の実現に向かって、予測困難な

未来を見通していく力を地道に磨いてほしいと改めて願っている。10年後、その記念すべき第一歩が本日のSDGsチャレンジフォーラムでのプレゼンだった、そう気張って振り返ってもらいたい」という強いメッセージを送りました。



本校生にメッセージを送る校長

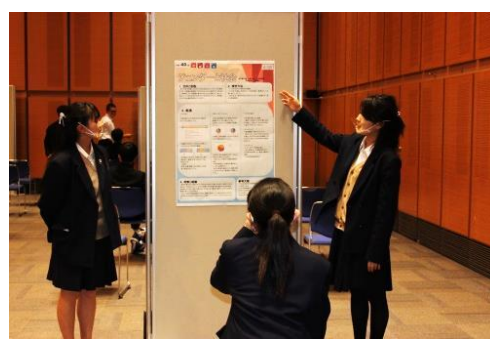


ソーシャルディスタンスを取って着席する生徒

午前の部では、1年生全員によるポスターセッションが行われました。4人一組80班に分かれた生徒たちは、様々な視点からSDGsの諸問題と向き合い、それぞれ独自の研究テーマを設けてこの一年間、調査・研究を行ってきました。今年度は、Covid_19（新型コロナウイルス）の全国的な感染拡大による緊急事態宣言を受けた長期休業や、ウィルスの感染拡大防止のための外出制限等により、生徒たちは紙媒体によるアンケート調査や現地調査が思うようにできず、例年のような十分な調査活動ができませんでした。しかしインターネットを活用したアンケート調査など、従来にはない新しい調査手法を取り入れたり、大学生から客観的な指導を頂くワークショップ（[2020年11月19日マイクロプレゼンテーションの項参照](#)）などの経験を積んだことで、研究成果として一枚のポスターにまとめ上げることができました。



ソーシャルディスタンスに配慮しながら会場をレイアウトしました



ポスターセッションを行う1年生たち

午後の部では、2年生探究学習委員の生徒14名（7班）によるプレゼンテーションを行いました。例年実施してきた海外フィールドワークにおける現地調査が実施できない中、県内の各事業者の協力を得ながら実施することのできた県内フィールドワーク（[2020年8月17-18日県内フィールドワークの項](#)参照）での調査結果をふまえ、SDGsの諸問題解決のための新しい方向性を示すことが出来ました。

また、このプレゼンテーションはオールイングリッシュによる発表であるため、生徒たちは研究成果をまとめる事と同時進行にて、筑波大学生命環境系教授 堤純氏の助言を頂いたり（[2020年12月2日英語プレゼンテーション実習の項](#)参照）、英語教員からも英語の言い回しや発音などの指導を継続的に受けてきました。発表会の前日には、タイマー片手に夜遅くまでスピーチの練習に励む生徒の姿が見られました。

発表会当日、生徒たちはこれまでの練習の成果をいかんなく発揮し、素晴らしい英語プレゼンテーションを行うことが出来ました。その発表を聞いた1年生からも、研究内容についての鋭い質問が飛ぶなど、大変白熱した発表会となりました。

また、今回初めての試みとして、ビデオ会議ツールを利用した外部指導者によるリモート講評や、プレゼンテーションのネットライブ配信などを企画しました。特に2年生の研究発表の講評では、英語プレゼンテーション実習でもお世話になった堤純教授からリモート講評を頂くことが出来ました。

全体講評の中で堤純教授からは、「探究するということはどういうことか。インターネット等を利用して情報を集めやすくなった現代において、研究テーマをより深めるためには、『なぜ』という疑問を常に持ちながら研究を深めることが大切である。」というご助言がありました。また、これから大学進学を目指す本校生に向け、「大学とは答えのない問題に対

処することを考える場所である。ゆえに客観的なデータを示しながら、自分はこう思うという論理的な展開の仕方ができるようになって欲しい。」と激励してくださりました。

校内発表となってしまった本発表会でしたが、外部の方の評価を直接いただくことが出来た事で、生徒たちにとって大変有意義な発表会となると同時に、貴重な体験となりました。

年度末に向け、2年探究学習委員の生徒たちは、これまでの研究成果を研究論文にまとめていく事になります。



2年生探究学習委員による英語プレゼンテーション



1年生からも鋭い質問が出ました



堤教授によるリモート講評

6 生徒の研究テーマ（一覧）

1 年ポスターセッション

班	研究テーマ	班	研究テーマ
1	「SNS におけるトラブルをなくすには？」	41	「スマホどのくらい使ってる？」～スマホ依存と勉強時間の関係～
2	「非常時におけるより良い自宅学習のために」	42	「霞ヶ浦の匂いを消したい」
3	「学習姿勢向上のすゝめ」	43	「生物と共存しよう」
4	「霞ヶ浦の水質汚染について」	44	「食品ロスを減らそう」
5	「土浦一高への安全な通学についての研究」	45	「食べ物の流行の変化を探る！」
6	「流行のアルケーについて」	46	「霞ヶ浦を飲もう」
7	「男女平等を目指して」	47	「蚊を撲滅しよう」
8	「在留外国人の災害対策」	48	「腹持ちの良い朝食とは？」
9	「AI 技術の有効な活用方法とは」	49	「高齢者を孤独から守ろう」
10	「高齢者ドライバーの問題について」	50	「人種差別をなくそう！」～1人1人が暮らしやすい社会に～
11	「私達にできる地球温暖化対策とは！？」	51	「食品ロス解決隊」
12	「バリアフリーマップをつくろう！」	52	「地域のバスをもっと身近に！」
13	「睡魔撃退法と文房具」 ～質の高い勉強で学力 UP～	53	「タバコとの共存」
14	「プラごみを減らそう」	54	「今だからできる！公共交通機関のマナー」
15	「リサイクル率を上げよう！」	55	「食品ロスを減らそう！」
16	「おうち時間のお供に読書！」	56	「空き家」～可能性は無限大～
17	「土浦駅のたばこマナーについて」	57	「勝手に載せないで！」～著作権について～
18	「新型コロナウイルスによる食料廃棄率の変化と対策」	58	「体を柔らかくするためには？」
19	「勉強してなさそうに見えるのに頭が良いのはなぜ？」	59	「ペットだって逃げたい!!」
20	「日本伝統文化の継承について」	60	「Pla-Project」 ～レジ袋削減に向けて～
21	「レジ袋有料化の効果と発展性」	61	「動物の殺処分について」
22	「居眠りに関する調査」	62	「元最下位の逆襲」～高校生から始める地域活性化～
23	「土浦一高生でも修学旅行に行きたい！」	63	「色の心理学」～色で生活を豊かにしよう～
24	「現代社会に出会いを求めるのは間違っているだろうか」 FAMILY MAKE	64	「家庭での食品ロスを減らすには」
25	「エアコンと省エネ」	65	「防災マップを広めよう！」
26	「中学受験、このままでいいの？」	66	「国産森林資源の有効活用について」
27	「無投票の増加について」	67	「選挙とコロナ」～投票率の低下を防ぐための新たな選挙方法とは～
28	「AI と職業 就職難を乗り越えるには」	68	「海洋プラスチック問題の現状と解決策」～霞ヶ浦の環境を通して提案したい事～
29	「災害時の避難」	69	「食品ロス対策の実態について」
30	「学生のスマートフォンと視力について」	70	「中高生、ネットとどう付き合う？」
31	「スマートフォン依存」	71	「茨城県初の世界遺産誕生のために」～近世日本の教育遺産群～
32	「コロナ時代 ～今私たちができること～」	72	「高校生の恋愛から見る～男女の関係改善に向けて～」
33	「RPT ～Reduce Plastic Trash & Save The Earth Project～」	73	輸血量が増加する現在を生きる「高校生の献血を増やすためには」

34	「Saving Electricity」	74	「ごみのポイ捨て」
35	「超・アンケート」	75	“The Relationship between Biological Clock and Good Health”
36	「高齢者ドライバーについて」	76	「日本の学生の自殺を減らすために」
37	「睡眠の極意」	77	「理想の夫婦関係を探る」
38	「バリアフリーの現在と未来」	78	「土浦一高生の自転車通学は安全か！？」
39	「公共交通機関の利用を促進させよう！」	79	「安く美味しい食生活を」～500円をなめんじゃねえぞ～
40	「ジェンダーと社会」	80	「身近な害虫」

2年探究学習委員プレゼンテーション

班	研究テーマ
1	現代社会におけるインターネット世代のあり方
2	日本人の幸福とグローバル化の関係
3	プラタモリに学ぶミライのマチ作り
4	ゴミ問題と私たちの意識
5	虐待と犯罪
6	男女差別の是正のために
7	理想の動物園設計

7 参加した生徒の感想（一部抜粋）

（1年生の感想）

- ・中学までは、自分たちの興味のある内容について深く考える機会がなかったので、とても新鮮な経験になった。発表時に様々な人が見に来て下さり、鋭い指摘や意見、感想などを頂いてとても参考になった。
- ・同じ班の人達と一緒に良いものを仕上げようと試行錯誤し、完成した結果、新たな発見や周りの人と協力することの大切さを学んだ。
- ・ワークショップやクラスでの発表を通して、自分たちでは気づくことができなかった改善点やその後の研究方針を見直すことができた。同じようなテーマの発表でも、グループによって研究方法などが異なるので、新しい発見もあった。
- ・探究学習は1年を通して自分たちで考えて活動するので、先を見通す力、考える力、実際に行動する力がついた。
- ・探究活動を通じて、資料をどうしたら効果的に見せられるかを考えたことにより、広告の資料などを作る側の視点で見るようになった。
- ・1年生は調べたことをうまくポスターにまとめられていて良かったが、自身が考えた解決策を提示していない班が多かったので、解決策を提示すればもっと個性的な良いポスターになったと思う。
- ・2年生は質問に対して難しい内容でもその場で考えて、すらすら答えられていたので、

やはり先輩の探求は自分たちよりレベルが高いと考えた。

- ・ 2年生の発表は全て英語で理解できないところがあったので、字幕などをつけて改善すると、もっと良くなるのではないかと思った。

(2年生の感想)

- ・ 今年は感染症などによる想定外の事態があったが、前向きにアイデアを巡らせることで突然の経路変更を楽しめた。本番ではオーディエンスとの対話を含め気持ちよく話すことができ、試行錯誤が無駄でなかったと感じた。

- ・ 想像とは違った一年間の中で、最善を尽くし、そしてその集大成を飾ることができて本当に良かった。関係者の方々には感謝の気持ちでいっぱいである。また、このような素敵な経験をより多くの後輩にも味わってほしいと思った。